



天塩町長  
吉田 忠

令和7年の新年を町民の皆様とともに迎えることができたことに慶びと感謝を込めてご挨拶を申し上げます。

町政の重責を担い2年が過ぎようとしております。旧年は、町民の皆様のかいご支援とご協力を賜りながら、山積する課題に真摯に向き合い、少しずつですが着実に歩みを進めることができましたこと、心より感謝を申し上げます。また、旧年発生しました水道水の濁りにつきましては、町民の皆様にも多大なるご迷惑とご不便をおかけしましたこと、心より深くお詫び申し上げます。

旧年を振り返りますと、4月から天塩町立国民健康保険病院に内科医が着任し、常勤医師2名体制となりましたこと、町民の皆様が医療の面で安心いただける環境が整いました。継続課題でありました、天塩町安定型産業廃棄物最

終処分場の維持管理につきましても、民営化の協議が整いましたこと、今後の効果的な民間運営が図られることに安堵しております。子育て分野では、スポーツセンター・前屋外遊具が更新され、子ども達の遊び場・交流の場が整備されました。また、子ども・子育て応援ガイドの配布もはじまり、本町の充実した子育て施策が広く伝わっていることと存じます。教育分野におきましては、児童数の減少から令和6年度末をもって啓徳小学校を閉校し、天塩小学校と統合する決断をいたしました。私自身も雄信内地区の出身であり、

当校の119年にわたる歴史と思い出を想起しながら、閉校記念式典に参列してまいりました。これまで啓徳小学校を支えていただきました皆様へ深く感謝を申し上げます。天塩高校におきましては、一昨

年度から1学年1間口となり、全校生徒も90名弱となりました。7年目を迎えた高大連携事業は、新たに、麗澤大学と包括連携協定を締結し、新体制の中で、麗澤大学及び筑波大学、天塩高校と連携した「まちづくりシンポジウム」を開催しました。また、両大学を天塩高校生が訪れ、本州の高校生らとのまちづくりアイディアの発表会、シンポジウムに参加してまいりました。発表アイディアの1つは、「内閣府地方創生☆政策アイディアコンテスト2024」にて、経済産業省北海道経済産業局長賞を受賞しました。未来を担う若者たちが日々努力を重ね、年々成長していく姿に感銘を受けるとともに、提案されたまちづくりアイディアを「カタチ」にできるよう、皆様と協働した取組みを進めていきたいと思っております。

町の基幹産業であります農林水産業にしましては、天候不良等による飼料用作物への影響や、気候変動等による秋鮭の漁獲量の減少など、大変厳しい状況でございますが、本町が有する産業基盤、豊かな農水産物や恵まれた資源など、国の「食」を支える大きな強みは健在でございます。また、夏季に開催されました「天塩川しみまつり」と「天塩スカイライトフェスティバル」では、商工観光

業の活気や来場者のにぎわい、高校生をはじめとした地域の皆様と一体となったイベント運営に、町の一体感の高まりと産業の可能性を強く感じました。

旧年は、新たな試みや多くの決断を、皆様との対話の中で進めた「進展」の年であったと思っております。

政策にしましては、現在、役場も含め、あらゆる分野で人手不足が深刻化しておりますが、いかにして人材を呼び込み、獲得するかという点に注力し、外部の知見と「つながり」を大切にしながら、人材確保策を進めております。

また、基幹産業である農林水産業におきましては、担い手、後継者の確保と育成に向けた対策を、関係機関との連携を一層強化し推進しており、特産品であるシジミにおきましては、その資源の回復と、漁業資源の活用推進、付加価値化に努めております。

さらに、町の食資源を活用した特産品開発の促進や、トップセールスによる新たな企業との関係構築など、私も、積極的にまちのPR・コミュニケーションに取り組み、本町の魅力ある特産品の認知度アップを目指しております。先人の方々が築いてきた「ふるさと天塩」は、多くの資源と魅力にあふれております。本町の豊かな自然、恵まれた

景観や豊富な食資源など、地域の魅力を最大限発信したく、全国公募の中から2名の公認インフルエンサーを任命しています。SNSやインターネットを通じて、全国へまちの魅力を発信し、まちの認知度・好感度の向上に努めてまいります。

さて、新年は、私の町政も3年目を迎え、第1期の折り返し点となる年でもございます。皆様との対話の中でいただきました多くのご意見、ご指導ご鞭撻と、私自身の旧年の省察、研鑽の積み重ねを、まちの「発展」と「改革」に活かす、新たな道を切り拓く年でありたい思いでございます。まちづくりの基本でもあります「対話・協働・調和」を銘記し、子どもからお年寄りまで笑顔あふれる優しいマチの実現に向け、一層の努力を重ねる所存です。

結びに、新年が皆様にとつて幸せと笑顔にあふれた年となりますよう心よりご祈念申し上げます。そして、私たちの町が、希望にあふれた「飛躍」と「発展」の年となりますよう、町民の皆様のお力添えを心よりお願い申し上げます。



北海道知事  
鈴木 直道

新年明けましておめでとうございます。皆様とともに新たな年を迎えられたことを、大変うれしく思います。

昨年を振り返りますと、能登半島地震や各地での大雨など全国で大規模災害が相次ぎ、宮崎県沖で起きた地震では、初めて「南海トラフ地震臨時情報」が発表されました。また、秋には、道内の農場で高病原性鳥インフルエンザが発生し、防疫対策に取り組むとともに、物価の高騰による影響が長期化しており、本道経済の活性化を図るなど、道民の皆様の命と暮らしを守る思いを一層強くする年となりました。

こうした中、本道のさらなる飛躍に向けた歩みが着実に進みました。国家プロジェクトである次世代半導体の製造拠点ではEUV露光装置が搬入され、着実に整備が進むとともに、北海道・札幌「GX

金融・資産運用特区」が国に認められ、国内随一の再生可能エネルギーのポテンシャルを有する北海道が、国内外から一層注目されようとしています。私自身、ニューヨークを訪問し、州政府関係機関と連携の枠組みを構築したところであり、先進地の知見も活かしてGX・DX産業の集積を目指します。

また、念願が叶い「日高山脈襟裳十勝国立公園」が誕生しました。多様な生態系が残る自然は世界に誇る財産であり、ヒグマとのあつれきの低減を図りながら、豊かな自然を守り、その魅力を広く発信してまいります。

観光入込客数がコロナ禍前の水準を回復しつつある中、本道経済の発展に資する観光振興を図られるよう、宿泊税の導入に向け、検討を進めてきました。引き続き、関係の皆様の声を丁寧に向ってまいります。

そのほかにも、全国最多1,000人以上の地域おこし協力隊の活動や、パリオリンピック・パラリンピックにおける本道ゆかりの選手活躍、アンテナショップ「どさんこプラザ」の過去最高売上の更新、北海道米「そらきりり」のデビューなどがありました。

昨年、新たに策定した北海道総合計画では、北海道の力が日本そして世界を変えていく、そして、一人ひとりが豊かで安心して暮らせる地域づくりを進めていくことを、めざす姿として掲げ、この実現に向けた取組の中で、様々な分野で北海道の未来を切り拓く可能性や輝きを実感することができたと思っています。

新しい年は、この計画を基盤としながら、道民の皆様の暮らしを守り、豊かな未来を築いていくためにと考えています。

防災体制の確立など命と暮らしを守る取組を最優先としながら、産業振興により地域経済を活性化し、さらには、我が国の食料・経済安全確保において役割を果たしてまいります。国内最大の食料供給地域として、農林水産業の持続的な発展に取り組むとともに、次世代半導体製造のパイロットライン稼働を大きな弾みとし、再生可能エネルギーや広大な大地、冷涼

な気候など多彩な強みを最大限に活かして、AIなどのデジタル関連をはじめとする新たな産業や人、投資の呼び込みを加速させてまいります。

そして、社会全体で子どもを支える「こどもまんなか社会」の実現への取組や、地域を支える人材の確保・育成を進め、さらに、戦後80年となる本年、一刻の猶予も許されない北方領土問題の解決に向け、返還要求運動に粘り強く取り組みます。

本年は、道庁赤れんが庁舎のリニューアルオープン、知床世界自然遺産の登録20周年、ウポポイの50周年、北海道で57年ぶりの全国菓子博、北海道豊かな海づくり大会の初開催など、様々な節目の年でもあります。

こうした機会も捉え、本道の自然、文化、産業などを国内外に発信し、人口減少をはじめ直面する課題を乗り越えていけるよう北海道の創生を進めてまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

本年が、皆様にとりまして、輝かしい未来に向けた素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

本年もよろしく  
お願いします

天塩町

町長 吉田 忠  
副町長 野崎 浩宜  
ほか職員一同

町議会

議長 横山 敦  
副議長 波辺 修勝  
議員 菊地 敏  
議員 草刈 幸男  
議員 山本 春光  
議員 後藤 忍  
議員 石山 直継  
議員 長山志津子  
議員 桑田 孝彦  
ほか職員一同

町立病院

病院長 橋本 伸之  
ほか職員一同

教育委員会

教育長 西村 聡  
ほか職員一同

農業委員会

会長 奥山 稔  
ほか職員一同

選挙管理委員会

委員長 岸山久美子  
ほか職員一同

監査委員

委員 高橋 泰史  
委員 石山 直継

固定資産評価審査委員会

委員長 岸山 清隆  
ほか職員一同